

# エピソード35

## 保護者にハッとする 一言をもらいました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が  
あります。  
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の先生が、中堅の時の  
経験をお聞きします。

30代後半に異動した学校で、高学年の担任になりました。クラスの子どもたちの多くは、学習ルール、生活ルールが身に付いていませんでした。

引継ぎで子どもの様子を聞いてましたが、始業式の子どもの姿を見て大変驚きました。校長先生が話しているのに、子どもたちはほとんど聞いておらず、おしゃべりがとまらないのです。





受け持つ子どもたちの姿に、先生はとても驚いたんですね。

はい、これは、大変なことになったとかなり緊張感が高まりました。

毎日、綿密に計画を立てて、同学年の先生とも相談しながら学級づくりを進めました。緊張で夜中に目が覚めることもありました。





とても大変な日々を過ごされたんですね。  
その後、子どもたちの様子はどうでしたか？

かなり事細かに指導をしたので、5月過ぎには  
生活ルールが定着し始めました。

保護者からは、授業参観で子どもがちゃんと勉強  
しているのに驚いたという声があった一方で、  
先生は厳しすぎるんじゃないか、子どもが窮屈だ  
と言っているという意見ももらいました。





そうでしたか、保護者から厳しい意見も出されたんですね。先生はそれを聞いてなにか思ったことがありますか。

子どもにルールを身に付けて欲しい気持ちが強く、多少厳しくてもしょうがない、子どものためなんだからと自分に言い聞かせました。

前任校では子どもたちと休み時間に遊んだり、給食を食べながら芸能人の話をしたりしましたが、このクラスではそのような余裕はありませんでした。





保護者のみなさんと、参観日や個人懇談以外にかかわることはありませんでしたか。

はい、クラス役員の保護者と話すことができました。ある役員さんは行事に積極的に力を貸して下さい、助けてくれました。

そして、先生の勉強の仕方はわかりやすいし、良いと思う等、肯定的なことを話してくれました。たぶん、お世辞もあったと思うのだけど。そんなこともあり、その保護者とは、ざっくばらんに話すことができ、笑いもある話が多かったです。





先生は、その保護者に助けてもらったと言いましたが、もう少し聞かせてもらえますか。

ある時、その保護者が、先生、子どもに教えている時、あんまり楽しそうじゃないですね、本当の先生のキャラ、全然子どもに伝わっていないような気がするのと、笑いながら話してくれました。その時、私はかなりハッとしました。その場は、笑ってごまかしましたが、心がズキンとしました。





先生は、その保護者の言葉を  
どう受け止めましたか。

子どもをきちんとさせようと厳しく接する  
だけで、子ども一人一人を見ていなかった  
ことに気づき、愕然としました。

子どもに負荷をかけすぎ、無理させ過ぎたので  
はないか、それから自分自身もかなり無理を  
していたんじゃないかと思いました。





その後、先生はどうしたのですか。

すぐに私の指導の仕方が劇的に変わったわけでは不是ですが、子どもに合わせた指導に徐々に転換していきました。  
そして、保護者の厳しい意見を再考する余裕も生まれました。





この経験から、先生は  
どんなことを考えましたか。

たぶん、その保護者の一言がなければ、子どもと  
私との関係は完全に冷え切ったものになり、反発  
を招いて負のスパイラルー直線だったと思います。

今から考えると、保護者は、担任である私を  
立てながら、子どもとの関係を心配して、  
話してくれたのかもしれない。





## なみちちゃんの一言

- こうしなければならぬ、子どものためにはこれがよいことだという思いが強くなるほどに、視野が狭くなり、子どもに無理をかけてしまうことがあります。そして、先生自身も心理的に辛くなります。
- そんな時に、先生がハッと気づきを得る、視野を広げる一言を口にしてくれる保護者がいます。
- 先生は保護者に助けてもらおうことがありますね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)